

第21回「海の香りのする詩」

市内小学生の部

大賞

海をテーマにした「海の香りのする詩」の受賞作品が決定しました。
市内から678点、市外（県内）からは278点の応募があり、次のみなさんが入賞しました。

教育委員会生涯学習課 ☎ (25) 1268

一日漁師

加茂小学校六年 瀬崎 紗良

待ちに待ったひじき刈り
家族総出で海へ繰り出す
ワクワクドキドキ
わたしは一日漁師
ひじきを刈ろうとカガ入る
水中めがねがキュッキュッ
わたしの心がおどる
ポイントに到着
わたしは海をのぞきこむ
そこには茶色い枝のようなものが
ユラユラ ユラユラ
よし、私の心が燃え上がる
さあ、ここから戦いだ
おとうさんがひじきを刈る
続けてわたしも負けずに刈る
おとうさんが刈って
わたしは積み刈って横升
船にめいいばいひじき



いつの間にか宝の山だ
もつともつとわたしは刈る
もうあがるぞ
おとうさんの合図で船に飛び乗る
お天道様がわたしにおかづて
よくかんばつたぞ。とほめてくれた
畔の道いっぱいにひじきを干す
辺り一面茶色いじゅうたん
わたしの手もひじきのように茶色い
あとお天道様がかんばる番
どんどんひじきが黒くなる
乾け乾けどんどん乾け
美味しいひじきでできあがる
わたしの心は大喜び
家族を見るとみんな笑顔
ひじきよありがとう
お天道様ありがとう
一日漁師は家族の絆だ

「待ちに待ったひじき刈り 家族総出で海へ繰り出す」ワクワク感、ドキドキ感が実に見事に描かれています。

作業の様子が作者の目を通して、動きの中で描かれ、「私の心が燃え上がる」ひじきを刈る緊迫感、臨場感が伝わってきます。

お天道様に願いをかける。みんなで刈ったひじきに寄せる思いが、家族を一つにし、みんなの笑顔で結ばれています。

この一日作業が家族の絆を結んでいる素晴らしい作品です。紗良さんの家族の様子に感動しました。（選考委員長：松田健氏評）

市内中学生の部 **大賞**

「宿題」 河村たから（加茂中3年）

小学校の時 絵を描く宿題が出た
テーマは海

私は 最近海に行つてなかったのに
想像で海の絵を完成させようとした
次の日 祖父がその絵を見た

「なんやこれ。」

「何見て描いたん。」

私が何も見ずに描いたことを伝えると

「いかなんやんか。」

「海見に行くぞ。」

そう言つて出かけることになった

久しぶりの海だった

風も強くなって おだやかだった

祖父が

「よく見て」

「自分がどんな風に描きたいか考えろ」

と言つた

私は 荒れる海よりも

おだやかな海を描きたい

そして

青だけじゃなく たくさんの色を使いたい

と思つた

たぶん海に来なければ

こんなことは思ひつかかなかつた

「来て良かった」

私は 祖父に感謝した

帰ってから 私はすぐに絵を描いた

前に想像で描いた物とは全く違う

すごくいい絵ができた

その絵を見て祖父は一言

「良くなったやんか。」

たつたその一言が

私はすごくうれしかった。

その他の受賞作品は次のとおりです。

市内小学生の部

伊良子清白賞 「おじいちゃんの手」 木下太陽（安楽島小6年）

入賞 「おいの仕事」 濱口健太郎（答志小6年）、「海の探検」 森凌成（加茂小6年）、「ぼくとバッチ網」 永富久温（答志小6年）

奨励賞 「スーパーばあちゃん」 藤原梨瑚（神島小5年）、「岩場のテ」 山口叶太（鳥羽小6年）、「浜辺のひととき」 山下愛（鳥羽小6年）

市内中学生の部

伊良子清白賞 「島の盆踊り」 齋藤陽奈子（鳥羽東中2年）

入賞 「朝焼け」 柴山ひなた（鳥羽東中2年）、「鳥羽の海と熊野灘」 齋藤小夏（鳥羽東中2年）、「海へ飛び込め」 東拓実（鳥羽東中3年）

市内小学生の部

伊良子清白賞 「島の盆踊り」 齋藤陽奈子（鳥羽東中2年）

入賞 「朝焼け」 柴山ひなた（鳥羽東中2年）、「鳥羽の海と熊野灘」 齋藤小夏（鳥羽東中2年）、「海へ飛び込め」 東拓実（鳥羽東中3年）

奨励賞 「海に思い私を感じる」 中井倫世（加茂中1年）、「飛びこんでみると」 家田海昇（長岡中1年）

みなさんの作品は、受賞作品集として編集し配布する予定です。

※敬称略



教育委員会生涯学習課 ☎ 25 1268 Vol.165

『自らの人権意識を見つめ直し、さまざまな学校の仲間と人権問題について考える』

市内小・中学校

人権フォーラム開催

12月5日に市内8小学校、6日に市内5中学校の代表児童・生徒が「鳥羽商工会議所かもめホール」に集まり、「第12回鳥羽市小・中学校人権フォーラム」が開催され、活発な意見交換がされました。

アルツハイマー病や認知症のかたを家族に持ち、自分自身の行いを見つめ、行動を改めていく意見。いじめの問題を自らの課題と捉える仲間づくりを進める意見。障がい者

との関わりから自らを変えていく意見。授業で学んだ渋染一揆の学習や、出会い学習から学んだこと。今年もさまざまな意見がありました。

学校全体で自分たちの暮らしや生い立ちを十分に知り合える実践を続け、その中で生まれた葛藤や悩みや思いをフォーラムで出し合い、自分たちの人権感覚を磨き、生活を良くしていくこうとする姿勢が見られました。

児童・生徒はそれぞれ「人権の尊重」という問題意識を持って事前に作文を書き、各学校を代表して参加しています。

学校を越え、自分の願いや思いを主体的に発表しあうことで、豊かな出会いと発見の場を作るとともに、互いに刺激し合い、各学校での広がりができます。

この交流をもとに、さらに学校・学年・学級・家庭での話し合いなどの地道な活動の上に人権学習が広がり、深まることを期待しています。そして、回を重ねることで、将来の鳥羽市民の「豊かな人権感覚あふれる街づくりへ」繋がることを願っています。